

「間質性肺炎における、血清及び気管支肺胞洗浄液中循環核酸マーカーの臨床的有用性に関する研究」に関する公示

間質性肺炎は、肺の間質を炎症や線維化病変の場とする疾患の総称で、国の難病に指定されています。中でも、特発性肺線維症(IPF)は、肺の線維化が進行性に悪化し、生存期間中央値が2~3年と予後不良の疾患です。このためIPFを含めた間質性肺炎の診断や予後、治療反応性等を正確に、迅速に予測できる有用なバイオマーカーが必要ですが、これまで報告されているバイオマーカーの精度は高くはありませんでした。しかし近年の核酸分析技術の進歩に伴い、末梢血・尿・気道分泌物といった体液を循環する核酸分子が多種同定されており、中には疾患の診断や予後予測、治療効果判定の優れたバイオマーカーとしての活用が期待されているものがあります。

そこで、2007年4月~2017年12月に、公立陶生病院で間質性肺炎の診断を受けた患者さんの体液中の核酸分子の濃度を測定し、予後・治療反応性・急性増悪の発症等を予測できるバイオマーカーとして循環核酸分子が有用であるか、血清と気管支肺胞洗浄液中の測定を行います。解析は名古屋大学で行われます。対象患者さんは約520人の方で、研究期間は公立陶生病院倫理委員会承認後から2027年12月までを予定しています。

この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報等を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが名古屋大学医学部附属病院呼吸器内科・病院助教・阪本考司（電話052-744-2167）までご連絡いただければ幸いです。

研究責任者：公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科主任部長 近藤 康博

研究協力者：名古屋大学医学部附属病院呼吸器内科病院助教 阪本 考司，同医員 古川大記